

防災学術連携体
平成 29 年度総会 議事次第

日時：平成 29 年 6 月 2 日（金） 13 時 00 分～14 時 00 分

場所：(公社) 土木学会 講堂

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目外濠公園内

1. 開会の辞

2. 議長選出

3. 議長挨拶

4. 議事署名人の指名

5. 議事

第 1 号議案 平成 28 年度の事業報告及び収支決算
監査報告について

第 2 号議案 平成 29 年度の事業計画及び収支予算（案）について

第 3 号議案 幹事の退任、選出について

報告事項

- ・新規加盟学会について
- ・委員会データベースについて
- ・ホームページのお知らせおよびカレンダーへの掲載について

6. 今後の予定

7. その他

8. 閉会の辞

配布資料

- ・平成 28 年度の事業報告【資料-1】
- ・平成 28 年度の収支決算【資料-2】
- ・平成 29 年度の事業計画【資料-3】
- ・平成 29 年度収支予算（案）【資料-4】
- ・幹事の退任、選出について【資料-5】
- ・新規加盟学会【資料-6】
- ・今後のスケジュールについて【資料-7】
- ・防災推進国民大会 連携セッション仮案【資料 8-1】
- ・防災推進国民大会 団体別セッションへの応募案【資料 8-2】

平成 28 年度 事業報告

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

平成 28 年度の事業について、防災学術連携体規約第 4 条（事業）の各事項に沿って、その内容を報告する。

（1） 毎年シンポジウムを日本学術会議と連携して開催する

第 1 回防災学術連携シンポジウム

8 月 27 日・28 日に開催された第 1 回防災推進国民大会において、「第 1 回防災学術連携体シンポジウム：52 学会の結集による防災への挑戦－熊本地震における取り組み－」（東京大学、安田講堂）、また二つのワークショップ「火山災害にどう備えるか」、「東京圏の大地震にどう備えるか」（東京大学、山上会館）を開催した。シンポジウム、ワークショップでは、防災推進国民大会が一般の市民を対象にしていることから、市民の方々に理解しやすいよう、できるだけビジュアルかつ平易な表現で講演を行い、多くの一般聴講者に参加頂き、理解を深めてもらうことができた。また、シンポジウムでは、各学会から減災・防災に向けた力強いメッセージが発信された。また、安田講堂回廊のポスターセッションでは日本学術会議と防災学術連携体の活動をポスターで紹介した。

参加人数：安田講堂シンポジウム約 400 名

山上会館ワークショップ 各ワークショップ約 200 名 2 ワークショップ計 400 名

第 2 回防災学術連携シンポジウム

12 月 1 日、日本学術会議講堂にて「激甚化する台風・豪雨災害とその対策」をテーマにして「国土利用と台風・豪雨災害」、「台風・豪雨災害への備え」および「台風・豪雨災害時の避難・救助・復興」の 3 セッションの構成で、公開シンポジウムを開催した。

防災に関わる各学会の専門家が集まり、研究成果や取り組みを発表すると共に、今後、わが国はどうか備えていけば良いのかを議論した。

参加人数：約 333 名

（2） 各学会の取組み等を紹介する防災関連の学術総合ポータルサイトを運営する

防災学術連携体ウェブサイトは、防災関連の学術総合ポータルサイトとして利用されることを目指し、ホームページには参加学会からのお知らせ、行事案内を集約し、随時情報の追加・更新が行われた。熊本地震の際は、各学会の調査結果等の情報が共有・公表され、分野横断的な学術連携の場の提供が実践・起動された。

（3） 日本学術会議と連携して、学会間の連絡網を構築し、緊急事態において必要な活動を行う

4 月に発生した熊本地震に際して、日本学術会議と共催で緊急記者会見、緊急報告会、三ヶ月

報告会、を開催した。

緊急共同記者会見

前震、本震、その後の余震が続く中、活断層や地震動の特徴、土木・建築建造物の被災状況、災害医療の現状等に関する学術的な所見を報道機関に提供するために、緊急共同記者会見を土木学会で実施した。緊急共同記者会見では、日本学術会議の会長談話を発信するとともに、熊本地震に関する関連学会からの知見や被害速報に対して、活発な質疑が行われた。緊急共同記者会見には、震災直後のため非常に多くの報道機関が集まり、結果として基本的な知見を正確かつタイムリーに伝えることができた。

参加人数：報道関係者 43 名、NHK、フジテレビ等

緊急報告会、三ヶ月報告会

熊本地震に関する緊急報告会が5月2日に日本学術会議の講堂で開催された。緊急報告会では、地震の特徴、被害の状況と対策、土砂災害と風水害、避難・救助・救援・復旧・復興に関して17の学会から速報があり、発災から3週間経過した時点での様々な側面からの貴重かつ豊富な情報が共有・公表された。

参加人数：約 340 名

さらに7月16日には、熊本地震三ヶ月報告会が開催された。緊急報告会と同様の構成で24の学会から調査報告に加えて地震や構造物被災に関する分析の報告があり、会場との熱心な討論が交わされた。

参加人数：約 323 名

(4) 政府・自治体・関係機関等との交流を促進する

政府や関係機関等との交流を促進するために各種の企画を検討した。具体的には(2)で記載したとおり、内閣主催の防災推進国民大会へ参加し、「第1回防災学術連携体シンポジウム：52学会の結集による防災への挑戦－熊本地震における取り組み－」(東京大学、安田講堂)、また二つのワークショップ「火山災害にどう備えるか」、「東京圏の大地震にどう備えるか」(東京大学、山上会館)を開催した。

(5) 学会間の交流をすすめ、より総合的な視点をもつ研究者を育てる

学会間の交流を進める手段の一つとするとともに、社会に対する情報発信、便宜供与を目的として、各学会の防災関連委員会の委員会名称、委員長・幹事長等、キーワード検索できる仕組みのデータベースを構築した。このキーワード検索(or検索・and検索)では、検索結果を概要と詳細で表示することができ、詳細表示からは各々の委員会サイトにリンク可能である。

(6) 国際交流を進め、世界の防災に寄与する

防災学術連携体ウェブサイトにも英文サイトを構築、また、防災学術連携体の英文パンフレットを作成して、海外に対する情報発信手段とした。

(7) その他本会の目的を達成するために必要な事業を行う

防災学術連携体設立の社会に対する広報に資するために、各種報道機関からの取材申し込みに対して積極的に対応した。防災学術連携体の設立意義など、各種メディア掲載情報を防災学術連携体ウェブサイトにとりまとめ、掲載した。

平成28年度 収支報告書
平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費		
年会費	1,630,000	
2 雑収入		
受取利子	14	
収入合計(A)		1,630,014
II 支出の部		
1 事業費		
(1) シンポジウム開催(12月1日)		
資料収集・編集	100,000	
会場設営・コピー代・お茶代・宅配便代	40,028	
(2) ポータルサイト運営		
運営・更新費	360,000	
URL代、メール等通信費	10,000	
(3) 緊急時対応(4月16日熊本地震対応)		
①4月18日緊急記者会見		
会場設営費	13,816	
②5月2日緊急報告会		
資料収集・編集	50,000	
お茶代	3,271	
③7月16日三ヶ月報告会		
資料収集・編集	50,000	
お茶代	4,515	
(4) ①防災推進国民大会(8月27日、28日)		
シンポジウム、ワークショップ1・2開催経費	2,764	
ポスター展示費用	39,096	
事業費計		673,490
2 運営管理費		
事務局人件費		
アルバイト代(2名)	480,000	
交通費	57,798	
事務局管理費		
コピー代・通信費等	240,000	
運営管理費計		777,798
支出合計(B)		1,451,288
当期収支差額(A)-(B)		178,726
前期繰越収支差額		149,838
次期繰越収支差額		328,564

原本に相違ありません。

防災学術連携体

監事

吉野 博




平成28年度収支決算
監査報告書

私は、監事として、防災学術連携体の平成28年度、すなわち、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの関係書類及び伝票を閲覧した結果、本収支報告書が適正であることを報告致します。

平成29年 4月7日

防災学術連携体 監事
日本学術会議会員

吉野 博

吉野 博 

平成 29 年度 事業計画

自 平成 29 年 4 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

平成 29 年度の事業計画について、防災学術連携体規約第 4 条（事業）の各事項に沿って、その内容を示す。

(1) 毎年シンポジウムを日本学術会議と連携して開催する

日本学術会議と連携して以下のシンポジウムを開催する：

第 3 回防災学術連携シンポジウム「熊本地震一周年報告会」

主催：日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、熊本県、
防災学術連携体

日時：平成 29 年 4 月 15 日（土） 11:00～18:20

会場：熊本県庁本館 地下大会議室（450 名）

- ① 熊本地震の観測と現象解明
- ② 地震の被災状況と対策について
- ③ 土砂災害・風水害と対策について
- ④ 情報提供・避難・救援・復旧・復興について
- ⑤ 熊本県・熊本市の発表

第 4 回防災学術連携シンポジウム

内閣府、防災推進協議会、防災推進国民大会主催の「第 2 回防災推進国民大会」への参加企画案「衛星情報・地理情報と防災イノベーション」

主催：防災学術連携体・日本学術会議（防災減災・災害復興に関する学術連携委員会）

日時：平成 29 年 11 月 26（日）～27 日（月）

会場：仙台国際センター

大会主催者による「連携セッション」の 1 企画

大規模災害に備える ～みんなの連携が力になる～

小テーマ：防災について学ぶ 「学術研究の成果を防災に生かす」

「衛星情報・地理情報を防災に生かそう」（仮案）

主 催：防災学術連携体、日本学術会議（防災減災・災害復興に関する学術連携委員会）

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)

国土交通省 国土地理院 【大会主催者（内閣府防災担当）】

(2) 各学会の取組み等を紹介する防災関連の学術総合ポータルサイトを運営する

防災学術連携体ウェブサイトについては、防災関連の学術総合ポータルサイトとして利用されることを目的として、ホームページには参加学会からのお知らせ、行事案内を集約、随時更新する。また、概要と参加学会、Introduction、学会出版物・報告書、各学会の防災関連委員会紹介、常時の交流・連携と災害時の緊急連絡網、学術フォーラム、公開シンポジウム、声明・報告等情報発信、国内外のお知らせ、国際協力・学会連携、防災推進国民会議、日本学術会議（防災関連）、賛助会員、防災連携委員のページの各サイトについて、より一層内容の充実を図る。

(3) 日本学術会議と連携して、学会間の連絡網を構築し、緊急事態において必要な活動を行う

常時は、学会間の連絡を緊密にするとともに、交流を促進するための手段として、災害などの緊急時には緊急連絡網として機能させることを目的として、防災連携委員、各学会の事務局の名簿の更新を継続する。

(4) 政府・自治体・関係機関等との交流を促進する

(1) の記載のとおり、平成 29 年 4 月 15 (土) 熊本県庁にて、熊本県との共催で熊本地震・一周年報告会を開催する。各学会の調査結果を現地に報告するとともに、現地の状況を把握し、今後の復興や防災に寄与するためである。翌 16 日 (日) は学会関係者による熊本城、阿蘇大橋など被災現場を視察する。

また、防災学術連携体の活動成果について、政策立案担当者に対する周知を図るとともに、政策提言を行う機会として、平成 29 年 6 月 2 日に関係機関との意見交換会を開催する。

さらには平成 29 年 11 月 26 日 (日) ~27 日 (月)、仙台国際センターで開催される第二回防災推進国民大会へ参加する。

(5) 学会間の交流をすすめ、より総合的な視点をもつ研究者を育てる

昨年度、公開した各学会の防災関連委員会のデータベースについて、随時内容の更新を行い、常に最新の情報が閲覧できるようにする。学会間の交流を進める手段の一つとするとともに、市民や自治体などが各学会やその委員会、またはこれらが発信する情報へのアクセスを容易にすることを目的とする。

(6) 国際交流を進め、世界の防災に寄与する

防災学術連携体ウェブサイトにおいて、英文情報の更新を行い、海外に対する情報発信手段とする。また、防災学術連携体を構成する学会、防災連携委員、特任会員などを通じて、防災学術連携体の活動成果を海外に発信、世界の防災への寄与を図る。

(7) その他本会の目的を達成するために必要な事業を行う

防災学術連携体設立の社会に対する広報に資するために、各種報道機関からの取材申し込みに対して積極的に対応する。メディア掲載情報は、防災学術連携体ウェブサイトにとりまとめ、掲載する。

平成29年度 収支予算(案)

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1. 会費		
年会費	1,630,000	
当期収入合計		1,630,000
前期繰越収支差額		328,564
収入合計		1,958,564
II 支出の部		
1 事業費		
(1) 報告会開催(4月15日・熊本市)		
チラシ作成・資料収集・編集	100,000	
会場設営・コピー代・お茶代	20,000	
当日アルバイト代	30,000	
意見交換会送迎バス代	30,000	
事務局交通費	120,000	
(2) 防災推進国民大会(11月26日、27日)		
チラシ作成・資料収集・編集	50,000	
会場設営・コピー代・お茶代	20,000	
ポスター展示費用	20,000	
事務局交通費	80,000	
(3) 総会・意見交換会(6月2日)		
会場設営・コピー代・お茶代	10,000	
(4) ポータルサイト運営		
運営・更新費	240,000	
URL代、メール等通信費	10,000	
事業費計		730,000
2 運営管理費		
事務局人件費		
アルバイト代(2名)	480,000	
交通費	50,000	
事務局管理費		
コピー代・通信費・消耗品等	240,000	
運営管理費計		770,000
3 予備費	130,000	
支出合計		1,630,000
当期収支差額		0
次期繰越収支差額		328,564

幹事の退任、選出について

- ・退任幹事
 - ・緑川光正（日本建築学会）
 - ・筆保弘徳（日本気象学会）

新規加盟学会について

・日本看護系学会協議会(平成 28 年 5 月 19 日 幹事会承認)

会長：片田 範子

連携委員：片田 範子、山本 あい子

事務局：小西 美和子

・日本公衆衛生学会（平成 28 年 6 月 22 日 幹事会承認）

理事長：大井田 隆

連携委員：村嶋 幸代、本橋 豊

事務局：山崎 幸子

・日本緑化工学会（平成 28 年 8 月 15 日 幹事会承認）

会長：柴田 昌三

連携委員：小川 泰浩、田中 賢治

事務局：中村 華子

・一般社団法人 日本リモートセンシング学会（平成 28 年 9 月 2 日 幹事会承認）

会長：栗屋 善雄

連携委員：伊東 明彦、奈佐原 顕郎

事務局：柴田 晶子

・日本地形学連合（平成 28 年 11 月 21 日 幹事会承認）

会長：倉茂 好匡

連携委員：小口 高、松四 雄騎

事務局：目代 邦康、北村 和子

◎ 平成29年度の事業計画 スケジュール

平成28年度			平成29年度									平成30年度	
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			★幹事会 (2/20 13:00～15:00) @土木学会A会議室	★幹事会 (5/9 13:00～15:00) @土木学会A会議室					★幹事会 (9/4 10:00～12:00) @土木学会A会議室				
				★平成29年度総会 (6/2 13:00～14:00) @土木学会講堂									★幹事会 (未定 2月～3月) @土木学会A会議室
				★関係機関との意見交換会 (6/2 14:15～16:30) @土木学会講堂									
			★第3回防災学術連携シンポジウム 熊本地震・一周年報告会、視察 (4/15～4/16) @熊本県庁										
										★ 第4回防災学術連携シンポジウム 防災推進国民大会 (11/26～27) @仙台国際センター			

201705 米田雅子

防災推進国民大会 2017 大会主催者による「連携セッション」の1企画

大規模災害に備える ～みんなの連携が力になる～

小テーマ：防災について学ぶ 「学術研究の成果を防災に生かす」

「衛星情報・地理情報を防災に生かそう」(仮案)

2時間(準備10分、本番105分、撤収5分)

主 催：防災学術連携体、日本学術会議(防災減災・災害復興に関する学術連携委員会)

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構(JAXA)

国土交通省 国土地理院 【大会主催者(内閣府防災担当)】

日 時：平成29年11月26日または27日

場 所：仙台国際センター

企画趣旨：

人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けている。人工衛星が取得したデータは精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野と連携して多方面で活用される潜在力を有している。

例えば、人工衛星から撮影した画像に、地上で取得した様々なデータを重ね合わせることで、ハザードマップや土地利用図など防災に役立つ各種の地図を作成することができる。GPS・GIS情報等との組み合わせにより、災害発生時には全体を把握することができ、避難・救援・復旧などに役立てられる。

本セッションでは、衛星情報の防災分野での利用研究やイノベーティブな活用方法を紹介するとともに、地方自治体との連携の可能性、今後の未知の分野とのコラボレーションの可能性を模索したい。

次 第：

0:00 挨拶 ○○○○
趣旨説明 ○○○○

0:05 人工衛星と防災を学ぼう：宇宙航空研究開発機構

0:25 衛星情報の防災への利用事例：国土地理院

0:45 ディスカッション「人工衛星の情報を防災に活かそう」

コーディネータ：○○○○(日本学術会議または防災学術連携体)

パネリスト 山口県(西日本衛星防災利用研究センターの設置県)

パネリスト 宇宙航空研究開発機構

パネリスト 国土地理院

パネリスト ○○○○(防災学術連携体の構成学会)

パネリスト ○○○○(防災学術連携体の構成学会)

1:45 閉会

*これは検討中の仮案です。6月2日の総会・意見交換会で検討戴く予定です。

201705 米田雅子

防災推進国民大会 **団体別セッションへの応募案**
第4回防災学術連携シンポジウム・日本学術会議公開シンポジウム

「衛星情報・地理情報と防災イノベーション」(仮案)
2時間(準備10分、本番105分、撤収5分)

主 催：防災学術連携体・日本学術会議(防災減災・災害復興に関する学術連携委員会)
日 時：平成29年11月26日または27日 2時間
場 所：仙台国際センター

企画趣旨：

人工衛星は、昼夜を問わず、地球に関する膨大なデータを取得し続けている。人工衛星が取得したデータは精度を高めつつあり、防災・減災、災害復興の幅広い分野に活用される大きな潜在力を有している。さらに、リアルタイムでの情報提供につながる超小型衛星によるオンデマンド観測にも期待が集まっている。

例えば、人工衛星から撮影した画像に、地上で取得した様々なデータを重ね合わせることで、ハザードマップや土地利用図など防災に役立つ各種の地図を作成することができる。GPS・GIS情報等との組み合わせにより、災害発生時には全体を把握することができ、避難・救援・復旧などに役立てられる。

本シンポジウムでは、地球惑星科学連合、地理情報システム学会、日本リモートセンシング学会から、衛星情報・地理情報に関する現状と将来計画を紹介していただくとともに、防災学術連携体の各学会から、衛星情報・地理情報の利用事例を発表する。

衛星情報・地理情報のイノベティブな活用方法、未知の分野とのコラボレーションを模索すると共に、防災に関わる学会ネットワークである防災学術連携体に期待される役割についても議論する。

担当学会：地球惑星科学連合、地理情報システム学会、日本リモートセンシング学会
協力：JAXA、国土地理院、日本学術会議 地球惑星科学委員会(未定)

次 第：

0:00 挨拶・趣旨説明

0:05 人工衛星と防災(仮)：地球惑星科学連合(13分)

0:18 地理情報と防災(仮)：地理情報システム学会(13分)

0:31 リモートセンシングと防災(仮)：日本リモートセンシング学会(13分)

0:44 5つの学会発表「利用事例と今後の方向」(10分X5学会)

1:34 質疑応答

1:45 閉会

***これは検討中の仮案です。ご意見があれば事務局長米田までお寄せ下さい。**